

ちぬや 足寄に新貯蔵施設



新設される貯蔵施設（奥）と既存施設のイメージ図。合わせて貯蔵能力は1万3000トになる（宮坂建設工業提供）

【足寄】冷凍食品製造販売の味のちぬや（香川県三豊市）の子会社北海道ちぬやファーム（足寄町共栄、松村信人社長）は3日、足寄町郊南1で、ジャガイモ集出荷貯蔵施設の建設工事に着手した。同日、建設予定地で地鎮祭を開いた。総事業費は約41億円で、来年2月の完成予定。（佐藤匡聡）

来年2月に完成 収容1万3000トに

新施設は鉄骨造平屋、床面積は約5800平方メートル。7000ト規模の施設で、既存の貯蔵庫（6000ト）と合わせて、全体の貯蔵能力は1万3000トになる見込み。整備費のうち約11億円は、経済産業省の大規模成長投資補助金を活用する。

地鎮祭には味のちぬやの今津秀会長、渡辺俊一町長、

コロッケ原料増対応

大。現在は出荷量が9000トを超え、増産に対応するため新施設を整備する。同JJAは今年度、計2833トで1万ト超のジャガイモ生産を計画している。

今津会長は「北海道を第3の創業の地と位置付けている。原料の生産から加工までを一体的に行える体制が整いつつあり、地域と共に発展したい」と述べた。渡辺町長は「施設整備は農業基盤の強化と地域の活性化につながる」と期待。新津組合長は「事業のパートナーとして1万3000ト（のジャガイモ）を安定的に納めることが、組合員のやりがいある営農につながる」と話していた。



地鎮祭でくわ入れを行う今津会長